

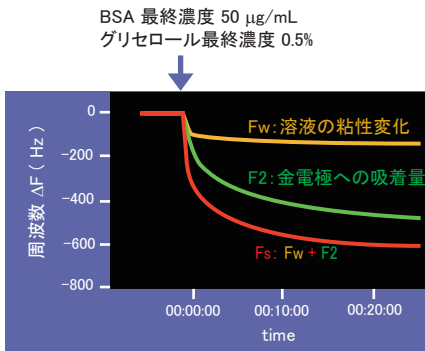
# 試料粘性に影響されない相互作用解析

## 方法

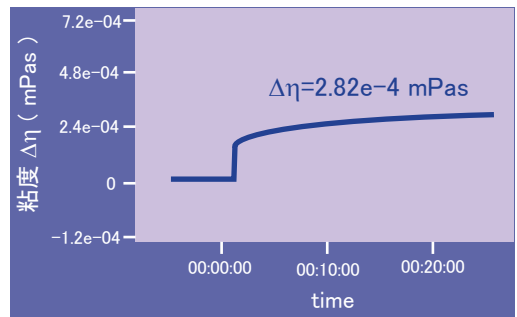
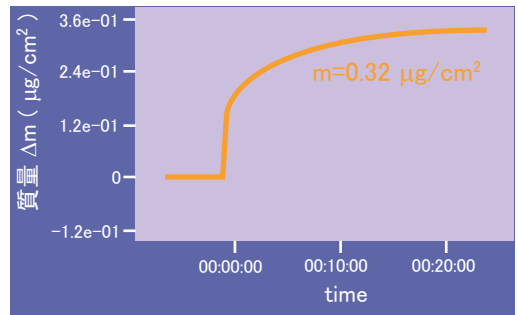
1. 測定溶液 500 $\mu$ L を入れ、測定開始
2. 粘性溶液に溶解されたサンプル 5 $\mu$ L を添加

## 測定例

### グリセロール溶解タンパク質の吸着



解析



周波数 F2、Fw が変化していることより、吸着と溶液の粘性が同時に変化していることがわかる。

\* Fs は吸着による質量変化と、溶液の粘性変化の両方の変化を計測する。

さらに、得られた周波数の解析をし、質量 (m) すなわち BSA の吸着量と、粘度 ( $\eta$ ) すなわちグリセロール添加による測定溶液の粘性の変化量をそれぞれ算出した。

## 応用

1. グリセロールに溶解したタンパク質の相互作用測定  
(※タンパク質の安定化剤としてグリセロールが添加されている場合が多い)
2. 有機溶媒に溶解した化合物の相互作用測定
3. 自己集合単分子膜 (SAM) の形成過程のモニタリング
4. 培養液や生体試料等のクルード溶液中のタンパク質の相互作用測定
5. その他 高粘性溶液中での分子吸着量・相互作用測定